

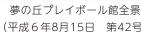
第42号)

がそこで遊び、道外の子ども

いました。地元の子どもたち

たちが交流したりするのが一

触れ合うことをテーマとして



だけでも贅沢を感じられまし

大人はバーベキューした

いてイスに座って1日過ごす

白いイス、テーブルを置

来館者が楽し でいる様子 (谷村さんから写真を提供)

りコンサートしたりするのが 名だった方からメッセージが 日常でしたね。 世界で展覧会を開くほど有

らい派遣すると言ってくださ 年、子どもたちを100人ぐ もたちが来てくれましたね。 ボール館が完成したら、 ありました。夢の丘プレイ 応援したくなった」と連絡が ち(谷村さん、日暮さん)を 屋で活躍されていて、「君た とがあります。その番組を視 物が建っていないときに、 いました。実際、10年間子ど 塾の社長が北海道出身で名古 聴していた、大企業の英会話 やりたいという夢を語ったこ の丘プレイボール館の活動を たね。某番組の特集で何も建 はつながりを作ってくれまし 寄せられるほど、月曜日新間 毎 夢

> す。 に手を広げる人たちがいるか が輝ける。いきなり輝けるの 躍できました。キーマンにな 助けてくれる人がいたから活 らこそ輝けるのだと思いま ではなく、外から来た人たち る人がいるから外から来た人 たです。受け入れてくれる、 いなければこの場所はなかっ 助けてくれたまちの人が

感じです。 りました。始まるよりもその もあるので感慨深いものがあ 描いた夢が形になった瞬間で 東京から友達、仲間と一緒に 持ちが込められていました。 を満喫してくださいという気 と子どもも大人も贅沢な時間 遊びましょう」という気持ち う意味もあるので、「さあ、 ますが、プレイには遊ぶとい 後の方が大事なので、 始まるときの合図も指してい たときの気持ちを思い出せば 「さあ、プレイボール」って プレイボールには、 始まっ 野球が

という思いはありました。 なっていくと始まったんだな できた一つひとつ夢が形に た、夢の丘プレイボール館が 脱サラし、 自 然塾ができ

どもたちがその場所で自然と 畑を作って馬や牛を離して子

助けられて夢を加速させまし

まちの人の温かさにより、

子どもたちの交流なので、

あって町有地を借りることが

自然の中を選び、

町の協力が

ちにも北海道の自然の素晴ら 作りました。仲間や子どもた 然に夢の丘プレイボール館を

-成6年に安平地区の大自

しさを伝えたい思いから、大

親交が深い4人に聞いてみました。 最 殺後に、 月曜日新聞とはどんなものだったかを

桜木半治さん

として、まちの人を紹介した 月曜日新聞でした。 れられないぐらい記憶に残る やってきたことは決して無駄 たつながりができました。 り合いもいるので、そういっ 囲が広がり、今でも町内に知 聞だったと思います。発行者 ちとのつながりがあっての新 3人、吉川さん、 ではなかったです。今でも忘 で、取材をすることで行動範 いという気持ちが強かったの 当時、 自然塾を立ち上げた まちの人た

谷村琢哉さん

ということを自分たちで伝え のがこんなところにあるんだ も輝けるもの、 しての挑戦でもあり、まちで テレビやメディアの評価に対 かに楽しむか」でした。有名 なく、「ただ一度の人生をい 貧乏か、それらの物差しでは ではなくても輝けるんだと。 が有名か無名か、お金持ちか 私たちがやりたかったこと 素晴らしいも

> も伝えたいです。 ていましたが、その精神は今 した。月曜日新聞は数年やっ たかった、それができてい ま

日暮孝男さん

新聞だったと思います。 りを作ってくれたのが月曜日 したので、そういったつなが 人と仲良くさせていただきま 交流するにあたって、まちの だいたので感謝しています。 ちの人が快く受け入れていた 私は道外から来たのに、ま

大橋博範さん

でき、 とても良いツールでした。 んにも知ってもらえたので、 上したり、町内・町外の皆さ も兼ねて少しずつ知名度が向 とでした。新聞では、ご挨拶 とってはとてもありがたいこ もまちの人の中に知り合いが しました。道外から来た私で ながりやご協力があって移住 といったさまざまな人とのつ 吉田牧場さん、吉川良さん 当時の若い頃の私に